

パーソルグループ（パーソルホールディングス株式会社）  
「@（アット）：対話型鑑賞ゼミ 2017 年度下期」レポート

京都造形芸術大学  
アート・コミュニケーション研究センター 専任講師  
岡崎大輔



「はたらいて、笑おう。」を合言葉に掲げ、国内外 90 社を超える企業群で労働・雇用の課題解決に総合的に取り組んでいるパーソルグループ。同グループでは、グループ全社員を対象に「他者との関わりを通して自ら最適な答えを導き出し、行動し続ける力をつける」ことを目的とした公募型研修「@（アット）」を展開している。同研修は「遊ぶように学ぶ」をコンセプトに掲げ、『「あっと驚く」気づきや学びの場をつくり、一人ひとりが探求し、行動し続けることを後押し』している。演劇、造形、ダンスなど企業研修ではユニークな手法が取り入れられ、本センターは同研修内の「対話型鑑賞ゼミ」を担当している。

同社と本センターの連携は 2016 年度から継続しており、2017 年度下期は東京、大阪の 2 拠点でゼミを開講した。研修プログラムは参加者同士の対話を重視し、アート作品の対話型鑑賞プログラム ACOP / エイコップ（Art Communication Project）ほか、「みる・考える・話す・聴く」の 4 つをコンセプトとした複数のワークショップで構成している。以下に、参加者の声を紹介しゼミをレポートする。

- \* 「自分が見ている世界が全て」という根底の認識を覆す研修でした。世界はひとつだが、それを見ている「自分の世界」は見ている人の数だけ存在するという頭では分かっていたことを、体感として気づきました。「常に物事は多面的である」とワークショップ中に発言されたメンバーの言葉が印象に残っています。
- \* そもそも「みているもの」「きいているもの」が違うということ、理解やコミュニケーションには解釈や編集が加えられているということに、非常に衝撃を受けました。

\* 人によって解釈、感受性が異なるということは理解しているつもりでしたが、あれほどに差があるとは思いませんでした。

\* 自分と相手は違うという事が改めて理解できた。人間は見たいものを見て聞きたいものを聞いているため、ミスコミュニケーションが生まれていることがわかった。

他者とのコミュニケーションにおいて、意見が食い違い、ときに平行線をたどってしまうことがある。その要因は個々人の経験や価値観の違いによることもあるが、実は、そもそも同じ物事でもまったく別々の理解をしているという可能性も考えられる。「みている」「きいている」物事が互いに異なれば、コミュニケーション上でズレが生じるのは当然だ。ゼミでひとつの題材についてじっくり対話する体験を通じて、自分がみている世界と他者がみている世界はまったく違うことを、参加者は実感する。

\* 自分との“対話”みたいなことが出来た研修でした。

\* 普段のコミュニケーションをパズルのようにバラバラに分解して、その1つ1つの意味付けを考えていくフローの中に、自己理解や他者理解を兼ね備えた、究極に内省できるゼミだったと思います。

\* 自分を客観的に見つめ直す機会になったこともそうですが、普段、自分がどういう思考回路で物事を発言しているのか、また、それがどのように人に伝わっているのか、この研修を通して学べたことは非常に多くありました。

\* 自分が伝えようとしていることが半分も伝わっていなかったり、反対に伝えてもらっていることを半分も受け取れていなかったり・・・自分が普段どれだけ会話を「省エネ」してしまっていることに気付いた衝撃的な研修でした！！

\* 自分が事実と認識しても、よくよく照らし合わせてみると実は解釈だったり・・・と、自分が意外と論理的ではないことを痛感しました。

\* 思考力を育て、他者との違いを学び、今後のマネジメントを考えさせられるととてもいい機会になりました。ものごとを見て、「すり合わせる」の視点が加わりました。

自分と他者の違いを実感した参加者は、その発見から得た視点で普段のコミュニケーションを振り返る。すると、「伝わらない」「通じない」状態を生み出している要因が、ほかでもない自分自身にあると気づく。コミュニケーションは自分と他者の間に起こっている現象であり、伝え手、受け手の一方的な関係ではなく、相互作用によって成り立っている。「伝わらない」「通じない」状態を改善していくには、互いの認識を「すり合わせる」ことが必要なのだ。ゼミ後、こうした学びが活きたという声も届いている。

\* 研修後、チームメンバーとの会話の中で「相手の言葉を自分なりに解釈して違う表現で話す」ことを意識して実践しています。また、「根拠をもとに話す」ことで意外と相手と認識が違っていることを再確認できました！意識していても言葉で表現することが難しいことは多々ありますが、「意識をするキッカケ」をいただいたことに感謝し、行動していきたいと思っています。

- \* 自己認知とそこから生まれる行動変革がありました。特に、会話の中で、自身の思い込みや経験による判断の誤りなど、顕著に出てきたこともあり、とても面白いと感じました。自身のコミュニケーションアクションを早速普段の会話などで取り入れています。メンバーとの 1on1 でも実行することで、非常に価値ある体験ができると感じています。
- \* 誰かに何かを伝える時に情報をどれだけそぎ落としてしまっているか、どれくらい付け足せば伝わるか、感覚が分かってきた気がする。

「@ (アット)」企画者である同社グループ組織開発部 人材開発室の長島氏は、ゼミ参加者に「このゼミでは、学び方を学ぶことも意識してほしい」と参加者に投げかけた。ゼミ後の実践の声にもあるとおり、ゼミはひとつのきっかけだ。ゼミで得た学びを活かすことはもちろん、その学びが生まれたプロセスも持ち帰り、パーソルグループに学びの場を広げていただきたい。では、このゼミはどのような学びの場だったのか。

- \* 「研修」というよりも参加者主体で運営していく「ゼミ」みたいだと感じました。
- \* 研修というよりもまさしくゼミで飽きさせず、特に 2 日目はあっという間に時間がすぎた印象です。今までのどの研修よりも自分の身になり、実際の業務に活かせることが出来る内容であったと思います。「難しくなく」「覚えるというより気づきを促し」「個々人で答えが違って構わない」ということが、スッと入ってくる理由だったと思います。
- \* 何かを教わるのではなく学ぶという感覚を、徐々に味わうことができたゼミでした。研修ではなくゼミということで、講師だけではなく他の参加者の話を聞きながら、自身の行動について改善していこう！という前向きな気持ちになることができました。
- \* 座学が苦手なので、遊びながら学ぶという方法や実践を通じて学べたこと、体感できたことが、腹落ちした本当の（？解釈も入っていると思いますが…）理解につながりました。

「教える・教わる」という固定された関係ではなく、講師や企画者も含め、ゼミに集ったメンバー全員による「学び合い」の場。こうした場が主体的な姿勢と前向きな気持ちを醸成し、フラットな関係性に基づいた対話によって、誰かの気づきが別の誰かの気づきを促し、行動の変容につながっていくのだ。ある参加者は、まるで「遊ぶように学ぶ」という「@ (アット)」のコンセプトを体現したような声を届けてくださった。

- \* こんな楽しいゼミを社員の為にしてくれるグループだと知って、パーソル HD にこれからもわくわくと期待感。(自分も何かやりたいとウズウズ)

今回のゼミをひとつのきっかけとして、パーソルグループの皆さんが「遊ぶように学ぶ」ことに加え「遊ぶように働く」ことができるように、そして同グループの「はたらいて、笑おう。」という合言葉の実現が近づくことを期待し、レポートを終えたい。